

緑豊かな津別を守る
町民集会でTPP参加反対を確認

TPP（環太平洋経済連携協定）交渉参加問題で日本と関係各国の事前協議が進む中、津別町では、2月16日に「TPPの影響と暮らしを考える町民集会」が行われ、会場の中央公民館には町民、団体関係者約250人が参加しました。
集会では、佐藤多一町長、山下邦昭農業協同組合長、日下太朗道議会議員、鹿中順一町議会議長から挨拶があり、東京農業大学の長澤真史教授の基調講演では、TPPの世界の動きや津別町への影響などが話され、参加者全員がTPPへの参加反対の意思確認を行いました。



みんなで記念写真

子どもも大人も元気一杯 スノーシューハイキング

2月25日、ランプの宿・森つべつ周辺で、「アソビバ!つべつ スノ シュー体験」が行われ、子どもたち5人がガイドの引率で国有林内にあるミズナラの巨木を目指して山道を探索しました。スノ シューとは雪上を歩くためのかんじきの一種で、初心者でも気軽に楽しめる道具。参加者は冬ならではの自然の息吹に触れました。
また、3月11日には一般町民を対象とした催し「スノ シューハイキングinチミケップ」が行われ、29人の参加者がチミケップ湖周辺を散策。森を抜けて見晴台からの雄大な眺めを楽しみました。



雪景色のチミケップ湖を眺める

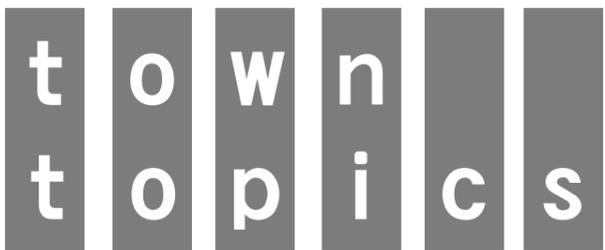


「防災情報をはじめ、たくさんの方々に地域情報を発信していきたい」と話し、更なる情報発信の効果に期待していました。

町に更なる情報の発信を
「災害対応型自動販売機」が設置される

2月29日、北海道コカ・コーラボトリング株式会社の福井誠北見販売部長が中央公民館を訪れ、「災害対応型自動販売機による協働事業に関する協定書」の手交式が行われました。

「災害対応型自動販売機」は、搭載されている電光掲示板を通じて、防災・地域情報の発信や災害緊急時に自動販売機内の飲料水の無料提供を行うことができるもので、農業者トレーニングセンター内に設置されました。協働事業を受け、佐藤多一町長は



まちのわだい

都道府県対抗トランポリン選手権
津別中の笹本君が3位入賞

静岡県で開催された「JOCジュニアオリンピックカップ・2012都道府県対抗トランポリン競技選手権」で、津別中学校2年の笹本陸君が15-16歳の部3位入賞。3月13日に町長室を訪れ、その結果を報告しました。



津別トランポリンクラブに所属する笹本君は日頃の練習の成果を発揮して、予選を4位で通過。8選手が1対1で勝負する決勝トーナメントに進出しますが、準決勝で惜しくも敗れ3位となりました。「緊張しました」と言う笹本君ですが、今後は完成度を高める練習を重ね、更なる飛躍を誓っていました。

昨年の4月にオープンした多目的活動センター「さんさん館」が、北海道緑の産業再生協議会が主催する『北海道木材利用施設コンクール』において、北海道知事賞に次ぐ、北海道緑の産業再生協議会長賞を受賞しました。

このコンクールは、地域材を利用して北海道内で建設された木材利用施設を対象に募集が行なわれ、全道から24施設の応募があつたなかで、さんさん館は津別を含めた道産材が施設全体に使用されており、北海道の「木」を存分に活用した施設として高い評価を受けました。



北海道木材利用施設コンクール
地域材活用のさんさん館が受賞



寒さに負けず、冬を楽しむ
チミケップ湖でワカサギ釣り

3月3日、チミケップ湖で小学校高学年を対象にアソビバ!つべつ「ワカサギ釣り体験」(社会教育課主催)が行われ、児童18人が参加しました。
当日は、雪が降る気配もなく、恵まれた天候で行われました。

初めはなかなか釣れず、悪戦苦闘を強いられる子どもが大勢いましたが、講師の久保利治さんが子ども一人ひとりに指導を行い、コツをつかんだ子ども達は釣り上げたワカサギを片手に、大きな歓声を上げていました。

3月13日、津別町教育委員会顕彰の表彰式が行われ、受賞者の石川瑞季さん(札幌山の手高等学校3年)に阿部博道教育長から賞状と記念品が贈られました。

津別町出身の石川さんは津別中学校を卒業後、高校バスケットボール名門校に進学。2年生のときから登録メンバーに選ばれ、高校3冠を含む5度の全国優勝に貢献しました。

4月からは新潟の大学に進学して競技を続けるそうで、「バスケットだけじゃなく、勉強もしっかりやりたいです」と抱負を語ってくれました。



津別町教育委員会顕彰
バスケの石川瑞季さんが受賞

食農教育応援事業

JAつべつが補助教材贈呈

3月15日、JAつべつの山下邦昭代表理事組合長が教育長室を訪れ、小学校高学年向けの補助教材「農業とわたしたちの暮らし」67冊を贈呈しました。

これはJAバンクが平成20年から実施している食農教育応援事業の一環で、子どもたちに食・環境等と農業のつながりを意識し、農業への理解を深めてもらうことが目的。

教材を受け取った阿部博道教育長は「津別のことを知るためには農業を知ることが大切。有意義に使わせていただきます」と、お礼を述べました。